

グアム政府観光局 (GVB)

# 食を通じ高校生と現地学生が交流 グアム政府観光局「うまいもん甲子園」に協賛

グアム政府観光局 (GVB) は、日本全国の高校生が料理で腕を競う「うまいもん甲子園」に協賛、優勝校に賞品としてグアム旅行をプレゼントし、現地のグアムコミュニティカレッジ (GCC) の学生と食文化を通じた交流プログラムを実施した。直行便で行ける日本から最も近い英語圏であり、充実したインフラを備え、豊かな自然と文化が息づくグアムは、教育旅行の目的地としても高い学習効果を誇る。今回のプログラムを通じ、グアムの教育旅行の魅力やメリットについてレポートする。

(取材協力=グアム政府観光局、取材=河原塚英信)

## 地元の学生と食文化交流 グアムの歴史や文化も学ぶ

グアム政府観光局 (GVB) は、一般社団法人「全国食の甲子園協会」が主催する第12回の「ご当地! 絶品うまいもん甲子園 (うまいもん甲子園)」をサポート。3月18日から21日に全国79校の304チームが参加した同大会の優勝チーム、群馬県立勢多農林高等学校 (勢多農林高校) をグアムに迎えた。

「うまいもん甲子園」は食を通じて農林漁業の大切さを伝え、高校生の夢を応援し、地域を盛り上げ、日本を元気にする事を目標とした「食の甲子園」。「ご当地の食材を活かした【SDGs】×地元の看板メニュー開発!」をテーマとし、全国の高等学校に通う高校生3人1チームでご当地食材を使用しオリジナルメニューを考案する。今回、同コンテストに見事優勝したグアムを訪れたのは宮嶋春佳さん、山崎歩乃莉さん、阿久澤良奈さんの3名だ。

## 両校によるプレゼンテーション 食による文化・語学の交流

グアム研修旅行では、チャモロビレッジやスペイン広場など同地の観光地を巡り歴史や文化を体験したほか、レオパレスリゾート内の日本食レストラン「壱岐 (IKI)」にて、グアムコミュニティカレッジ (GCC) との交流イベント「Cooking Exchange Program with GCC」を開催した。

イベント前半では、観光学を学ぶGCC学生がグアムの歴史や観光資源を紹介し、伝統的な葉編み体験のレクチャーを



グアムコミュニティカレッジの学生がグアムの歴史などをプレゼンテーション



グアムの伝統的な葉編み体験のレクチャー



日本チームのプレゼンテーションでは群馬の文化をアピール

実施。後半には、勢多農林高校の3人が、うまいもん甲子園決勝大会で披露したプレゼンテーションの英訳版を披露したほか、うまいもん甲子園での優勝メニュー「群馬のお好そば焼き (ぐんまのおこのそば焼き)」を、同カレッジの調理学科の教師 (シェフ) や生徒と一緒に調理した。

「群馬のお好そば焼き」は、小麦粉や大和芋、キャベツ、ねぎ、こんにゃく、豚肉などを混ぜて、ワッフル食材はすべてグアム内で購入ルメーカで焼き上げたもの。食材はいつでもグアム内で購入したものを使って調理した。いつもとは異なる材料や、ワッフルメーカーの使い方にとまどいつつも、両校の生徒はハプニングを含めて楽しんでいた。



グアムと日本の学生と一緒にクッキング  
また現地シェフによる、グアムのローカルフード、チャモロ料理「チキンケラグエン」「Manha Tatiyas」の実演も行なわれ、生徒たちは熱心に作り方を学んだ。特にココナッツを使った薄焼きパン「Manha Tatiyas」を作るシェフの手元を熱心に見つめ、出来立てを試食して顔をほころばせていた。

イベントの最後ではチャモロ料理を囲み、ランチをともにした。イベントを通



チャモロ料理のできたてを試食



参加学生にサーティフィケーションを贈呈するグアム政府観光局のシニアマーケティング・マネージャー・ジャパン レジーナ・リヴァイ・ネドリック氏

式だけでなく、今回のように、グアムあるいはチャモロを知ってもらえるようなプログラムを推進したい」と強調、「歴史や文化を知ること、旅の目的地を理解するのに非常に重要なことだから」と語った。

## 念願の羽田-グアム線就航に期待 早朝着の「おもてなし」提供を検討

日本からグアムへの旅行需要が確実に復活する中、嬉しいニュースが入ってきた。5月1日からユナイテッド航空が羽田-グアム線の運航をスタート、念願の羽田とグアムを結ぶフライトが誕生する。ネドリック氏は、日本のハブ空港である羽田からのグアム便が就航することで、首都圏からはもちろん、東北や四国などからの渡航者が増えることにも期待しているという。

「ただし、羽田便のグアム到着時間が早朝だという懸念点があるのも事実。そこでグアム政府観光局では、メンバーカンパニーであるホテルやレストランと協力して、早朝に来ていただいた日本からの渡航者に、どのような「おもてなし」が可能かを検討している。例えば、空港から各ホテルまでの移動手段を確保できないか、レストランなどで特別メニューを提供できないか検討している。またユナイテッド航空は、そうしたサービス情報を渡航者へ積極的に提供してくれると意思表示している」(ネドリック氏)。

そうした「おもてなし」がさらに充実してくれば、都心から近く、地方からのアクセスも良い羽田からのグアム便は、多くの渡航者にとって、メリットを感じるものとなるのは間違いない。

じて両校の生徒は徐々に打ち解けていき、最後には一緒にセルフィーを撮ったり、記念撮影をしたりしていた。日本の高校生3人にとってはもちろん、地元グアムの学生たちにとっても、記憶に残るプログラムになったはずだ。



グアムの「チャモロ料理」



群馬の「お好そば焼き」

## 若い世代が交流しやすい環境を支援 未来の観光業の活性化にも

勢多農林高校の生徒3名を招致したグアム政府観光局のシニアマーケティング・マネージャー・ジャパン レジーナ・リヴァイ・ネドリック氏は、うまいもん甲子園をサポートした理由について、「言うまでもなく、若い世代にグアムの魅力を伝えることは、未来の観光業の活性化に繋がるものであり、これまでも重視してきたこと。今回の支援も、その文脈に沿ったもの」と説明。「今後もグアムと日本の若い世代が交流しやすい環境を整えていきたい」と意欲を示す。

また今後の展開として、ネドリック氏は「従来からのホームステイのような形

## グアムの教育旅行をおすすめする10の理由

### 高い学習効果を期待 グアムならではの体験

グアム政府観光局では、今回のイベントのように、教育と文化の2つの要素を持つ企画を提案するほか、教育旅行先として多彩なプログラムを持つグアムの魅力を今後も旅行業界に訴求していく。そのテーマとして「歴史/平和学習」「語学研修/学校交流/ホームステイ」「チャモロ文化学習/体験」「自然・海洋学習」「スポーツ学習」「グアムでSDGsを実践する、持続可能な現場を体験する」などをあげ、各種素材を提案、経験豊富な日本人スタッフも多く、そのニーズをよく理解しているグアムへの教育旅行をおすすめする10の理由として右記を掲げ、需要の底上げを図る計画だ。

#### 1. 安心・安全・清潔な環境

「安心・安全」そして「清潔な環境」を整えた受け入れ態勢を実現。また万が一の際にも充実した医療体制が整っているのが安心。

#### 2. 日本から近く、時差わずか1時間! 至便なアクセス

飛行機でわずか約3時間半、空港から主要なホテルが集まるエリアへは車でわずか15分。時差も1時間と身体的な負担が少なく、全国主要都市から直行便でアクセスできる。

#### 3. 日本から最も近い英語圏

アメリカの準州であるグアムは、直行便で行ける日本から最も近い英語圏。本場の英語を体験し、リアルな国際社会に触れることで、生徒の学習意欲も刺激する。

#### 4. 年中が旅行シーズン

グアムは海洋性亜熱帯気候。冬でも泳ぐことができ、年間を通じて温度変化が少なく年平均気温は約27.5度と常夏。6~10月の雨季でもスコールがある程度なので支障がない。

#### 5. 短い日程でも充実したスケジュールが組める

日本から近いので、旅行費用の負担も軽減。また比較的短い日程で、現地での滞在時間を有効活用できるのも大きな魅力。

#### 6. ユニークな歴史と文化

古代チャモロ人の文化と共に、スペインやアメリカ、日本の統治など、さまざまな文化が入ってきたグアム。歴史背景はユニークで、文化体験や平和学習など学習要素に。

#### 7. 「自然が教室!」海と陸でさまざまな体験を

自然を教室に海と陸でさまざまなフィールド学習が可能。大自然を体験できるプログラムが多彩に揃う。高度な自然学習は、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)にも最適。

#### 8. 充実の施設

ホテルの受け入れ態勢は万全。イベントに対応できる会場も充実している。アクティビティも豊富で、大規模なウォーターパークや団体スポーツができる施設もある。

#### 9. 現地校との交流など、体験プログラムが豊富

現地校との交流は、本場の英語や国際性を身につけるまたとないチャンスだ。ボランティア活動やキャリア形成につながるユニークなプログラムの実施例も多数ある。

#### 10. SDGsをグアムで実践、意義のある教育旅行に

SDGsが求められる昨今、ピーチクリーニングやサンゴ礁保全、地元のお祭り「フィエスタ」への参加など、地域の社会や環境に配慮したプログラムが揃っている。